

令和6年度《学校経営計画》

名張市立北中学校

学校長 野田 朋憲

1 学校教育目標

夢をもち、心豊かで、たくましい生徒の育成 ―感謝・感動・つながり―

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	・生徒一人ひとりの心の居場所がある学校 ・安全で安心して学べる学校 ・地域に開かれた信頼ある学校
○児童・生徒像	・目標をもち、自ら学ぶ生徒 ・自ら考え、自ら行動する生徒 ・仲間とつながり、学び合う生徒 ・心身ともに健康な生徒
○教職員像	・チーム北中の一員として、つながり合う教職員 ・生徒の課題に寄り添い、生徒とともに実践する教職員 ・生徒・保護者・地域に信頼される教職員
○保護者・地域像	・つながり合い、学び合う保護者 ・子どもを見守り育てる地域

3 学校の現状

新型コロナウイルス感染拡大影響のため、生徒たちは互いの素顔が見えない中での意思疎通を余儀なくされ、日々の授業、学校行事や部活動など、生徒同士のつながりや集団づくりを進めるうえで大切な教育活動が制限されたなかで実施されてきた。これらのことが生徒の心身の発達に及ぼした影響は計り知れないものがある。

厳しい家庭的状況の中で、児童虐待、安否確認がとれない生徒、不登校、長期病欠生徒、心に悩みを持った生徒、様々な課題のある生徒が年々増加傾向にある。令和5年度3月末の不登校生徒は6名、長期病欠生徒は17名（年間30日以上欠席/本年度2・3年生の総数）であり、前年度よりも多くなった。特別な支援が必要な生徒も年々増加しており、通級による指導も進めている。

このような中、年間2回実施しているQ-U調査においても、学級生活満足群の減少、不満足群の増加が見られる（令和5年度第2回、全校の満足群61.6%、不満足群15.7%）。今後も日々の授業や生徒会行事等を通して、自己存在感や充実感を感じることができるよう、活躍の場や居場所づくりをさらに進めていく必要がある。

北中学校区の小中一貫教育、コミュニティ・スクールの取組については、5年目を迎え、縦と横のつながりもでき、内容も充実してきた。目指す生徒像の実現に向けて、学校の教育力を高めていくために、今後も日頃からの地域とのつながりを大切に、人的・物的資源を有効に活用していく必要がある。

本年度の改善方策

様々な課題をもった生徒が増加傾向にある中、校内においては、生徒の姿をよく観察し生徒の課題に寄り添いながら、報・連・相、情報共有を密に、担任を中心にチーム北中として指導、支援を進めていくことが大切である。個々の課題は表面的に見えにくく、教育相談を充実させ、生徒の変化に気づき、未然防止、早期に対応していくことが重要である。また、課題も多岐に渡ることから、SSW、スクールカウンセラー、警察、児童相談所、家庭児童相談所等の関係機関との日頃からのつながりを大切にしながら、ともに課題解決に向けて粘り強く取組を進めていく。

学級・学年集団づくりを見直し、日々の授業をはじめ学級活動、学校行事、生徒会活動等を通して、生徒同士のつながりと居場所づくりをさらに進めていく。生徒一人ひとりに活躍する場を与え、達成感や充実感を感じ、学校が楽しい場、魅力ある場となるよう工夫、改善をしていく。そのことにより、不登校やいじめの未然防止につなげていく。授業においては、学習指導要領を踏まえ、生徒同士のつながり・学びが深まるよう、タブレットの有効的な活用も含め、指導方法の改善や生徒の学習意欲の向上に向けて取組を進めていく。

コミュニティ・スクールについては、4月に北中校区の学校長とCS会長との懇談会をもつ。防災について、地域の方と中学生の話し合いの場を設定し、企画・運営していく。小中一貫教育については、年3回の研修会を計画する。縦と横のつながりを大切にしながら、9年間の子どもの学びや育ちを意識した取組を進めていく。

すべての教育活動の基盤となるのは、活気ある教職員、チーム北中の一員としてつながり合う教職員集団である。教職員が心身ともに健康に職務を遂行するために過重労働対策を推進していく。（月2回以上の定時退校日、時間外労働の削減）

4 重点的な取組事項						
番号	内 容	実 施 期 間				
		4	5	6	7	8
1	わかる授業づくりと学習意欲の向上	○	○	○	○	○
2	豊かな人間関係と居場所づくり	○	○	○	○	○
3	生き方を学ぶ教育活動の充実	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1	わかる授業づくりと学習意欲の向上
-------------------	------------------

A 今年度の成果目標

「授業内容がほとんど理解できている」「授業に主体的に取り組んでいる」の項目を85%以上にする。

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

①	学習指導要領を踏まえ、生徒同士のつながりや学びが深まるよう、タブレットの活用も含め、指導方法の改善や生徒の学習意欲の向上につながる授業改善を進めていく。
②	学習規律の徹底と、学びに参加した成就感・満足感を感じることによって、子どもの主体的な学習姿勢（一人ひとりが活躍できる場の設定、発問の工夫など）を校区小学校と連携しながら培う。
③	家庭学習習慣の定着に向け、校区小学校と連携しながら保護者への啓発及び具体的な取組をすすめる。基礎学力の定着や、長期休業中に地域の方とともに補充学習等を実施する。

重点的な取組事項－2	豊かな人間関係と居場所づくり
-------------------	----------------

A 今年度の成果目標

Q－U調査の満足群を全学年65%以上にする。

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

①	「肯定的な振り返りによって生徒相互が認め合う」「教師が褒める、励ます、認める」等の場面設定を意識的にを行い、生徒の達成感・満足感を高める。
②	Q－U調査、教育相談を通して生徒の想いや状況を把握し、生徒の様子についての職員間の情報共有を密にし、組織的なはたらきかけ、生徒同士がつながる声かけの工夫をする。
③	生徒の自治活動の活発化を図り、教師が率先した姿を生徒に見せながら、生徒会の「5つの目標」のうち、「いじめのない学校」の達成意識（そう思う）を60%以上（R5年度:54.5%）にするための取組を行う。

重点的な取組事項－3	生き方を学ぶ教育活動の充実
-------------------	---------------

A 今年度の成果目標

「あなたは、自分の将来に夢や希望を持って学校生活を送っていますか」の項目を80%以上にする。

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

①	将来的に地域や社会に参画・貢献する意識を高め、コミュニティ・スクールをツールとして、地域と協働した取組を進める。（防災について、地域の方とともに企画・運営に携わり、防災訓練を計画する。）
②	面接や面談の機会を工夫し、将来自己実現が可能となるように、自己表現力を伸ばす場の設定や取組をすすめる。
③	ふるさと学習「なばり学」を意識しながら、職業や働くことについての調べや聞き取りの学習等、人と職業との出会いを工夫する。
	小中一貫教育を推進し、グランドデザインをもとに9年間の子どもの学びや育ちを見通した取組を進めていく。

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下（30時間以下の範囲）
	年360時間を超える時間外労働者数	0人（変更不可）
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人（変更不可）
具体的な方策	・タイムカードの活用により教職員が自らの在校等時間を把握し、業務を計画的に遂行することにより、勤務時間をセルフコントロールできるようにする。	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	10日以上（各学校で設定）
具体的な方策	・休暇が取得しやすい職場の雰囲気づくり、体制づくりを進めるための声かけを行う。 ・夏季休暇を全員が取得する。	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	80%以上
	予定通り休養日を実施できた部活動の割合	90%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	70%以上
	放課後に開催して90分以内に終了した会議の割合	100%
具体的な方策	・定時退校日を設定し、勤務時間内に業務が終了するよう、計画的に仕事を進める。 ・部活動の活動計画を毎月作成し、部活動ガイドラインに基づき休業日を設定する。 ・会議の在り方を検討し、開催にあたっては企画委員会等で事前に議題を整理・精選し、タブレットの活用、提案文書のペーパーレス化を推進する。	